延辺朝鮮族自治州スタディーツアーに参加して

宮崎　洋一

今回初めてヒューライツ大阪さんのツアーに参加させて頂きました。私自身は現在、吉林省・延辺大学に学部 4 年生として在籍しており、今回のツアーの運営に主導的に携わられている方とのご縁で、現地の通訳アシスタントという立場で同行しました。

図們（トムン）中朝国境、旧間島日本総領事館、詩人の尹東柱（ユン・ドンジュ）ゆかりの地を訪ねたりする中で、あらためて近代以降の北東アジア関係の複雑性を感じ、とりわけ今回参加された方々には延辺朝鮮族自治州との深いルーツがあり、研究分野、興味関心の方向など、それぞれアクセスの仕方が異なり、同じスケジュールをなぞりながら個別の感覚を持たれていたのではと想像します。

目的地に向かうバスでの移動中、現地の運転手とおしゃべりしていたのですが、その運転手はバリバリの中国東北訛りの“気さくなおじちゃん”でした。「この人たちはどんな人？」と運転手から参加者のことをきかれ「それぞれ著名な先生方だよ」と簡単な紹介をすると、「知らなかった。先生方がこんな辺鄙な所にわざわざ…」と怪訝そうにしていました。先ず、どんなお客を乗せるかよく理解していなかったことに、おいおいと思いましたが、彼にとっては関係ないのでしょう。でも、最後まで安全に且つ楽しく業務を遂行してくれたのでよしとしよう。

宿泊先のホテルでは排水がよくなかった、タオルが新しいものでなかった等、不便があった様ですが、これを未然に防ぐ手立てはないかもしれません。中国のトイレ状況に関しては、事前に誇張気味の“最悪のトイレ”情報が共有されていたらしく、「意外と平気だった」という声を聞きました。

中国独特の信号や横断歩道を敢えて無視する“交通ルール”は参加者の皆さんをヒヤヒヤさせたと思います。車が目の前をぎりぎりで通り過ぎるテンポとかわすタイミングはそれなりの経験則が必要なようです。

今回のスタディーツアーに参加させて頂いて、歴史的、民族的な内容について、日常の中の素朴な疑問、地域の人々の暮らしがなぜこのような形態をとっているのかなど、はっと気づいたこと、更に興味が湧いたことが多くありました。ありがとうございました。